

市民栄誉賞

3月3日(土)

今日は、市民栄誉賞の授与式。まず、ドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」ロケ隊を代表して、江森浩子共同テレビプロデューサーへ。かいぼ一先生やちょうど、広島から観光バスの皆さんも加わっていただき、100人以上が。



その後、福岡へ。原作者の島田洋七氏へ市民栄誉賞の授与。お忙しい中、同席してもらった武雄のがばいばあちゃん達とも懇談。爆笑の連続でした。



さすが、洋七師匠でした。



島田洋七さん、江森浩子さん、ありがとうございました。

そして、マリンメッセで、武雄のがばい物産を売ってくれた、商工観光課の草場さん、がばい課の田中さん、ありがとう！

武雄市長物語

今回は、ブログで公開されている『武雄市長物語』より、2月25日～3月25日までの分を抜粋して紹介します。

9%の意味

3月7日(水)

武雄のことが、連日のように新聞・テレビで出ています。嬉しい限りです。

嬉しさには二種類あって、政策が素材としてニュースとして取り扱われること。最近だと佐賀新聞・古賀記者の「動く市役所」。



それと、もう一つは、「評価」をされること。

最後のところに、「佐賀県と聞いて最初に思い浮かぶ市は？」に、何と我々が武雄市が9%。世界の有田の次。伊万里市4%、嬉野市2%を凌駕しています。嬉しくて嬉しくて、議会初日の市長演説で紹介（笑）。



知名度がすべてとは言いませんが、まずは知名度。いつかまた書きますが、武雄は知名度が無くて確実に損しています。

これは、「佐賀のがばいばあちゃん」とそれに伴う市民の皆さんの盛り上がり、そして、まちづくりがそこそこ上手くいっているからだと思います。その論証が河内利大さんの西日本新聞の紙面評価だと思います。

さあ、これからたまりにたまっている本を読まなくては。